

第3学年 算数科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「三角形を調べよう」

2 単元の目標

二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらないことを理解する。辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べることができる。具体物・図・言葉を使って方法の理由を説明し、自分の説明を確かめ直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらないことを理解し、学習した方法を操作や記述に表している。	①辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べる際に、具体物・図・言葉の対応を根拠として方法を説明している。	①辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える活動で、自分の説明を確かめ、友達の見方を使って修正しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元はB(1)ア(ア)・B(1)ア(イ)・B(1)イ(ア)を踏まえ、辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べることを扱う。既習を確かめる場面は「三角形を辺の長さで分類する」とし、そこから「身の回りの形を別の表現で確かめる」へ進む。二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらないという関係を、答えを求める手順の根拠として押さえる。辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える活動は、児童が使った方法の根拠を操作や図で確かめられるため、本時の課題とする。学校の年間計画で既習の順序が異なる場合は、最初の活動で必要な理解を確認してから進める。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

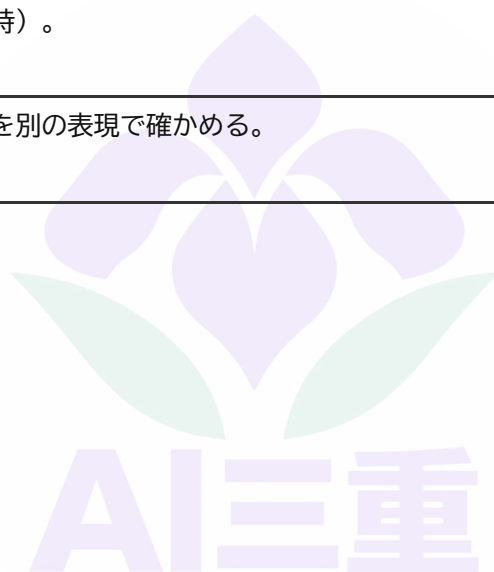
(3) 指導について

指導では、まず辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える場面を提示し、何が分かっていて何を求めるのかを児童と確認する。正しい方法を先に示さず、具体物や図で予想を確かめる時間を設ける。特に「尖って見えるかだけで分類する、辺の長さや角の大きさを混同する」という誤りが出た場合は、同じ長さの辺に印を付け、角の頂点と片方の辺をそろえて重ねることで自分の説明

を見直せるようにする。交流では方法の数を競わず、辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べるために使った根拠を比較する。教師は操作・ノート・口頭の説明を対応させ、表現の得意不得意によって理解の評価が変わらないようにする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○三角形を辺の長さで分類する。	知①（操作・記述）
第2次	3～4	○二等辺三角形と正三角形を知る。	知①（操作・記述）
第3次	5	○定規とコンパスで作図する。	知①（操作・記述）
第4次	6	○角を重ねて比べる。	知①（操作・記述）
第5次	7 （第7 時が本 時）	○折って角の関係を説明する。 ○辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える（本時）。	思①（図と言葉を結ぶ説明・ノート）
第6次	8	○身の回りの形を別の表現で確かめる。	知①（操作・記述）／態①（初めと修正後の説明の比較）



6 本時の指導（7／8（配分案））

（１）本時の目標

辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べることができる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える。 ○「何を求めるのか、今分かっていることは何かを、図や実物で示しましょう」 【めあて】辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・前に学んだ方法を使おうとする。 ・何を図に表せばよいか迷い、実物や操作で確かめようとする。	・問題の数値や実物は自校の教材と実測から選ぶ。教科書固有の問題文はこの資料に含めない。 ・同じ長さの辺に印を付け、角の頂点と片方の辺をそろえて重ねる。 ・答えの予想と根拠を分けて記録し、正誤を先に告げない。
展開 （ 分）	○自分の方法を操作・図・言葉で表し、使った部分に対応させる。 ○「尖って見えるかだけで分類する、辺の長さや角の大きさを混同するという考えは、どこを確かめればよいですか」 ○「あなたの説明の、図と言葉がつながる所を示してください」 ○友達の方法と比べ、同じところと違うところを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらないことを、操作や図と対応させて説明する。 ・最初の方法では確かめていない部分を見付け、友達の図と比べて説明を直す。	・尖って見えるかだけで分類する、辺の長さや角の大きさを混同する場合は、答えを教えず、同じ長さの辺に印を付け、角の頂点と片方の辺をそろえて重ねる。 ・考えが書けない児童には、操作した箇所に印を付けてもらい、教師が短い言葉を添えてから本人に説明を戻す。 ・説明できた児童には、条件を変えても方法が使えるかを問い、成立する範囲を確かめさせる。 ・発表は正答の順ではなく、辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べるための根拠が比較できるものを選ぶ。 ◎思① 辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べることを、図や操作と言葉の対応から説明している。（説明の記述・発言）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○初めの考えに戻り、どこを確かめ直したかを記録する。 【まとめ】二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらない。 ○自分の説明に根拠を付け足し、別の場面で確かめたいことを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・自分の図のどこを根拠にしたかを示して説明する。 ・最初の考えから変えた部分を記録する。	・まとめの文をそのまま写すだけにせず、自分の図のどこが根拠かを示させる。 ・誤答から修正した過程も記録する。発言回数や挙手の多さで態度を判断しない。 ◎態①（振り返りと説明の修正過程）

（３）板書計画

上段：めあて「辺の長さを基に三角形を分類し、角の大きさを重ねて比べる」。

左：辺の長さで分類した三角形を折り、等しい角がどこにできるか考える場面の図。既知の量と求める量を区別して示す。

中央：児童の操作・図・言葉に対応させ、根拠となった部分を同じ印で結ぶ。

右：「尖って見えるかだけで分類する、辺の長さや角の大きさを混同する」という考えと、確かめ直した結果を比較する。

下段：まとめ「二等辺三角形や正三角形では等しい辺に向かい合う角も等しく、向きを変えても性質は変わらない」。初めの考えから何を直したかを記す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

